

4月30日 南蛮屏風下張り文書レプリカ贈呈式（於：アジューダ宮）
（東大使挨拶）

本日は、南蛮屏風下張り文書「レプリカ」贈呈式にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私自身、このような場に立ち会うことができ大変光栄に存じます。

今回贈呈される「レプリカ」の「文書類」は1902年、リスボンで屏風の下張りから発見されたもので、通称「エヴォラ屏風下張り文書」と呼ばれています。その劣化防止のために1998～2002年に、日本の民間企業の協賛を得て、日本の京都国立博物館にて修復されました。

この度、この修復された文書の保護等を目的として、谷垣日・ポ友好議連会長を中心に「南蛮屏風下張り文書修復実行委員会」が設立され、同文書の「レプリカ」が作成されました。本日は、その「レプリカ」を谷垣会長の手で、国立図書館及びエヴォラ図書館の両館長に贈呈していただきます。

今後は、ポルトのソアレス・ドス・レイス国立博物館の南蛮屏風下張り文書を初め、ポルトガル国内にある下張り文書の修復が行われることとなります。

昨年5月の安倍総理ポルトガル訪問の際、エヴォラ図書館において、同文書の原本の一部を見られました。

また、本年3月のコエーリョ首相訪日の際の「共同コミュニケ」の進捗に関する「ファクト・シート」にも「ポルト、リスボン、エヴォラにおける南蛮屏風下張り文書修復事業への協力」が銘記されました。

日本とポルトガルの友好の歴史を象徴する文書の存在が、これらの修復を通じより多くの人に広まり、両国間の更なる関係強化に繋がることを期待しております。